

株主のみなさまへ

..... Vol.62

株主通信 第119期

2025年1月1日～2025年12月31日



表紙:2025年10月 イタリア・サンルカで開催されたジロ・デッレミリアの集団走行の様子
表紙写真撮影者:Massimo Fulgenzi / Cor Vos





代表取締役社長 鳥野泰三

事業の経過及び成果

当連結会計年度におきましては、世界経済は緩やかな回復基調を辿ったものの、各国の通商政策や国際紛争の長期化などの地政学リスクの高まりから、足許の景気に不透明感が生じ、景気の先行きに対する慎重な見方が継続しました。

欧州では、安定した雇用・所得環境や物価が個人消費を下支えし、景気は緩やかに回復しました。

米国では、関税政策の影響による物価上昇や労働市場の鈍化から消費者マインドが冷え込み、底堅く推移していた景気は足踏み状態となりました。

中国では、長引く不動産不況や個人消費の低迷により、景気は弱含みで推移しました。

日本では、食料価格の高騰が一服し、所得環境の改善や金融緩和の継続も手伝い、景気は緩やかな回復を維持しました。

このような環境の下、自転車、釣具への需要は引き続き弱含みであり、当連結会計年度における売上高は466,243百万円（前年同期比3.4%増）、営業利益は51,677百万円（前年同期比20.6%減）、経常利益は47,029百万円（前年同期比52.3%減）、親会社株主に帰属する当期純利益は33,991百万円（前年同期比55.5%減）となりました。

自転車部品

長期的なトレンドとして自転車への高い関心が続くなか、地域による濃淡はありつつも、全体として緩やかに市場在庫の調整が進展しました。

海外市場においては、欧州市場では、安定した天候から完成車の店頭販売は堅調だったものの、市場在庫はやや高めの水準で推移しました。

北米市場では、経済の不確実性から完成車の店頭販売は弱含みで推移した一方で、市場在庫は適正水準を維持しました。

アジア・中南米市場においては、個人消費の弱含みにより完成車の店頭販売はやや低調に推移したものの、市場在庫は概ね適正水準を維持しました。一方、中国市場では、スポーツサイクリングへの関心自体は底堅かったものの、ロードバイクの需要が落ち着きを見せ、店頭販売に力強さを欠き、市場在庫は高い水準で推移しました。

オセアニア市場では、当初弱含みだった店頭販売は堅調に推移し、市場在庫も適正レベルを維持しました。

日本市場においては、完成車価格の高騰の影響により、店頭販売は引き続き低調だったものの、市場在庫は適正水準で推移しました。

このような市況の下、刷新したマウンテンバイク向けコンポーネントの最高峰モデル「XTR」をはじめ、「DEORE XT」、「DEORE」の3シリーズや、自己発電で動作する自動変速機能を備えた「Q' AUTO」に対して高い評価をいただきました。

この結果、当セグメントの売上高は354,972百万円（前年同期比2.7%増）、営業利益は42,841百万円（前年同期比20.9%減）となりました。

釣具

釣具への関心が継続するなか、海外市場を中心に販売は底堅く推移し、市場在庫は概ね適正水準まで改善しました。

日本市場においては、市場在庫の調整は進捗したものの、物価高や猛暑の影響から個人消費が低迷し、販売は弱含みで推移しました。

海外市場においては、北米市場では、年間を通じて西海岸およ

び北東部を中心にオフショア釣況が良好で、販売は堅調に推移し、市場在庫は適正レベルを維持しました。

欧州市場では、安定した天候から販売は堅調で、市場在庫は適正水準で推移しました。

アジア市場では、中国市場を中心とした高価格帯リールの需要を背景に販売は堅調となり、市場在庫の調整が進展しました。

豪州市場では、安定した天候と好調なオフショア釣況に支えられ販売は堅調で、市場在庫は適正な水準で推移しました。

このような市況の下、新製品のスピニングリール「STELLA SW」やベイトリール「ANTARES」が高い評価を受けるとともに、最高級モデルのバスロッド「POISON ULTIMA」などの製品に多くのご注文をいただきました。

この結果、当セグメントの売上高は110,832百万円（前年同期比5.6%増）、営業利益は8,865百万円（前年同期比18.9%減）となりました。

その他

当セグメントの売上高は439百万円（前年同期比2.3%減）、営業損失は29百万円（前年同期は営業損失1百万円）となりました。

期末配当のご報告

当社は、株主のみなさまに対する利益還元を経営上の重要課題と捉えており、安定的な配当の維持・継続とともに、業績の進展に応じた成果の配分を行うことを基本方針とし、引き続き配当の充実と、機動的な自社株買い継続により総還元性向50%を下限の目安とし、株主還元向上につとめます。

この基本方針に基づき、今回の期末配当金につきましては、前年同期より15円増額の1株当たり169円50銭の配当とさせていただきます。これにより当期の年間配当額は、前期から30円増額の1株当たり339円となりました。

なお、次期の配当につきましては、1株当たり年間配当額363円（中間配当金181円50銭、期末配当金181円50銭）を予定しております。

今後の見通し

今後の見通しにつきましては、世界経済は底堅い成長が期待さ

れるものの、各国の政策動向や国際情勢の不安定化に伴う地政学リスクの動向等により景気が左右されることが予想されます。

欧州では、物価の安定と個人消費の回復を背景に、景気は緩やかな回復基調で推移することが見込まれます。

米国では、国際情勢の不確実性が増すなか、景気先行きの不透明感が強まり、底堅かった景気への影響が懸念されます。

中国では、不動産不況や失業率の高止まりが継続することで、景気は弱含みで推移することが見込まれます。

日本では、雇用・所得環境の改善や政府の社会政策が内需を下支えし、緩やかな景気回復が見込まれるものの、経済政策の方向性により影響を受ける可能性があります。

このような経営環境のなか、当社は自転車や釣具に対する需要動向を注視しつつ、日本発の「開発型デジタル製造業」として、お客様の視点にそった高品位で魅力的な「こころ躍る製品」を提供することに加え、企業と社会の共有価値を創造し続ける「価値創造企業」として、一步一步、前進していくことが大切であると考えております。長期的な視点に立ち、より豊かで、新たな自転車文化、釣り文化の創造を念頭に置き、経営効率のさらなる向上を図り、サステナブルな成長を目指してまいります。

その結果、2026年12月期の連結業績予想は以下のとおりいたします。

	2026年12月期	前年同期比
売上高	4,670億円	0.2%増
営業利益	470億円	9.1%減
経常利益	560億円	19.1%増
親会社株主に帰属する当期純利益	420億円	23.6%増

株主のみなさまにおかれましては、今後ともなにとぞ変わらぬご支援を賜りますよう、よろしくお願い申し上げます。

2026年3月

自転車部品事業



50年をかけて辿り着いた 万人の心地よさを叶える “究極”の自動変速

2025年夏より販売開始した「Q' AUTO (クオート)」は、当社初となるAI制御を用いた自動変速システムです。学習機能によって叶えられるオーダーメイドなサイクリング体験は、シマノが追いかけてきた「より多くの人のための自動変速」をかたちにしたものでした。

当社が長い歳月にわたって開発に取り組んできたものの一つである自動変速。その背景には、日常的に自転車に乗る一般のライダーを含む、すべての人に向けた自動変速を生み出したいという思いがありました。そうして数々の自転車向けの変速部品を世に送り出し続けてきましたが、その使い方に苦手意識や失敗体験を持つライダーは少なくありませんでした。特に変速操作は本格志向のライダーにとっては当たり前のものですが、通勤・通学などで利用する人には難しく感じられることが多く、ギアの性能も十分に活かされていない現状がありました。

乗りながらAIと“対話”するだけで 理想的な走りが完成する

「誰にとっても乗りやすく、誰にとってもフィットする自動変速」とは——。幾多のトライ&エラーを繰り返しながらようやく導き出されたのが、AIとその学習機能を活用した自動変速です。内蔵されたセンサーは走行中の「速度」「傾斜」「ペダルの回転数」を検知することができ、状況に応じて最適なギアを自動的に選択します。また、ライダーは快適なペダリングを常に予測し続けるAIに対して、「Q' AUTO」に搭載可能な無線変速スイッチを通じて「ギアをもっと軽く(もしくは重く)」と指示を出すことができます。こうした“答え合わせ”を繰り返すことで、よりライダーの好みに合った変速が組み立てられていきます。スイッチを介して重ねるAIとの“対話”が、自動変速の質をさらに一段引き上げ、理想的な走りを生み出しました。

バッテリーレス、充電要らず 日々のストレスからも解放

乗り手の走りを学習し続ける「Q' AUTO」ですが、その駆動に要するエネルギーは自ら生み出します。ペダルを漕ぐ力を利用してライトを点灯させるハブダイナモ(発電機)の仕組みを応用したもので、走るたびに自己給電を行います。充電不要でバッテリー搭載の必要もないため、ライダーはどんな時でも充電を気にせず走り続けることができます。

また変速の衝撃を抑えるために採用したのが「LINKGLIDE」ギアです。「いかにスムーズに変速するか」を重視した「LINKGLIDE」は、レース仕様のギアに比べて変速スピードが緩やかになるものの、滑らかなギアチェンジによって変速ショックを大幅に抑えることができます。長年の開発を通じて培った技術を最大限生かしながら、毎日の利用を考えたスペックと乗り心地を実現しました。



メディア発表は、当社初となる本社を舞台にして実施。企画・開発担当が、完成までのストーリーや、製品の魅力を熱く語りました。



メディア向けに行われた試乗会の模様。学習機能による自動変速の性能を実際に体感していただきました。

「クオリティ」や「究極」という意味を頭文字の「Q」に込めた「Q' AUTO」。そこには、長年の思いが結実し、万人に向けた自動変速を実現させた自信も映し出されています。一人ひとりの「心地よさ」を叶え、走る楽しさやよろこびを広げる新たな自動変速。その時代が今、始まります。

釣具事業

シリーズ最高強度の大型モデル登場で
際のないフルラインナップが堂々完成

STELLA SW



ソルトウォーターフィッシングの最高峰リール「ステラSW」より、計11モデルが新たに登場します。当社初となる25000番を含む大型モデルも加わり、幅広いニーズに応える全17モデルのラインナップが完成しました。

特筆すべきは、18000～30000番の大型モデルにおけるドラグ力の進化です。「XXタフドラグ」の搭載により、従来モデルと比較して熱ダレ*による性能低下は約30%改善し、耐久性も10倍以上を達成しています。また、糸を密に巻き取る「インフィニティープ」の採用により、ルアーの飛距離向上やドラグ作動など、よりスムーズなライン放出を叶えています。クロマグロやヒラマサといった大物と対峙した際にも信頼できる強さと耐久性、トラブル耐性を向上させました。

ステラSWをはじめ当社が手掛ける製品は、リール・ロッド・ギアそれぞれの性能が組み合わされることで相乗効果をもたらす設計思想「インフィニティコネクト」のもと開発が進められています。総合メーカーの強みを生かしたモノづくりを通じて、より深い釣り体験をお届けできるよう邁進してまいります。

*魚の強烈な引きによってドラグが熱を帯び、本来の性能が発揮できなくなる現象のこと。

ロックショアの「価値観」の共有を通じて
新たな絆と関係性を築く

自然の厳しさを常に感じながら、磯の上でレコードフィッシュを狙い続けるロックショアフィッシング。一匹を釣り上げるために多くの時間と経験を積み重ねるアングラーたちだからこそ、ギアに対する目線はとりわけ厳しいものがあります。数々のメーカーが台頭するなか、製品の機能を訴求するだけでは足りない——。そうした背景から、こだわりの強いお客様に響く「価値観」を広めるプロジェクト「AT THE EDGE」をスタートしました。

その出発点でもある「AT THE EDGE COLTSNIPER COMPETITION」は、2年を1つのサイクルとした施策です。昨年2025年にはSNS上にて釣果投稿による予選会を実施し、2026年には上位26名を五島列島に招いた決勝戦を行います。2024年に開催したテストイベントでは、地元の遊漁船や宿泊施設によるご協力のもと、競技会と食事会を1泊2日で行いました。会場では開発や企画に携わる社員たちが参加者の皆様に製品完成までのストーリーを

余すことなく語り、作り手・使い手の垣根を越えた熱い交流を深めました。2年の歳月にわたるオンラインとオフラインを掛け合わせた施策は、当社製品と釣り人の皆様、そして地元の遊漁船や小売店とのつながりも生み出しています。「価値観」を起点に新たな関係性を築いていく本プロジェクトに、今後もご期待ください。



AT THE EDGE

Special topic

社員やお客様への想い、
ものづくりへの
こだわりを形にした
新本社ビル「SGH」が完成

2025年冬、大阪府堺市にあるシマノ本社ビルが「SGH (Sakai Global Headquarters)」として生まれ変わりました。新たな100年を見据えた新社屋が掲げる、3つのコンセプトをご紹介します。

すべての社員が
堺の「家」だと感じられること

「SGH」という名称には、グローバルに広がるチームシマノが集える堺の「家」にしたいという想いが込められています。周囲には日本の四季を彩る木々を配し、社員が感性を豊かにしながらものづくりに励むことができる環境を整えています。

また、100年使用できるビルを目指し、免震構造や非常用電源など、自然災害時にも対応できる機能を備え、社員が安心して働ける体制を構築しています。さらに、新たに「Shimano Campus」フロアを設け、社員の自律的な成長を支援する教育・研修機能を充実させています。

お客様に上質なおもてなしを
提供する場所であること

建物の「顔」となる1階のエントランスホールでは、石を敷き詰めた壁面がお客様をお迎えます。壁や床、天井には選りすぐりの石材や木材を採用し、年月を重ねても上質な存在感が保たれる仕上がりとなっています。敷地内には日本庭園も設け、「日本」を感じていただける演出にもこだわっています。

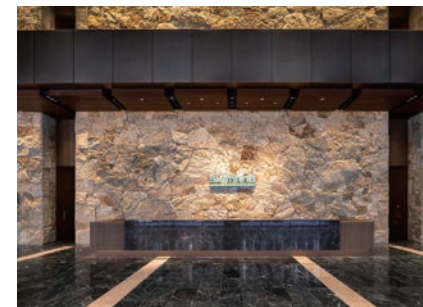
国内外から多くのお客様を迎える場所だからこそ、心地よく過ごしていただける空間を目指しました。



「シマノのものづくり」を体現すること

時代の流行に左右されず、本質を理解し、確実に良いと信じられるものを選び、丁寧につくる——こうした当社の姿勢を「SGH」に込めました。

建材の選定やデザイン設計などのプロセスを重ねて完成した社屋には、年月を経ても色褪せない普遍的な美しさが醸し出されています。また、地中熱や太陽熱などの再生可能エネルギーを活用した省エネルギー化により、持続可能な社会への貢献も実現しています。

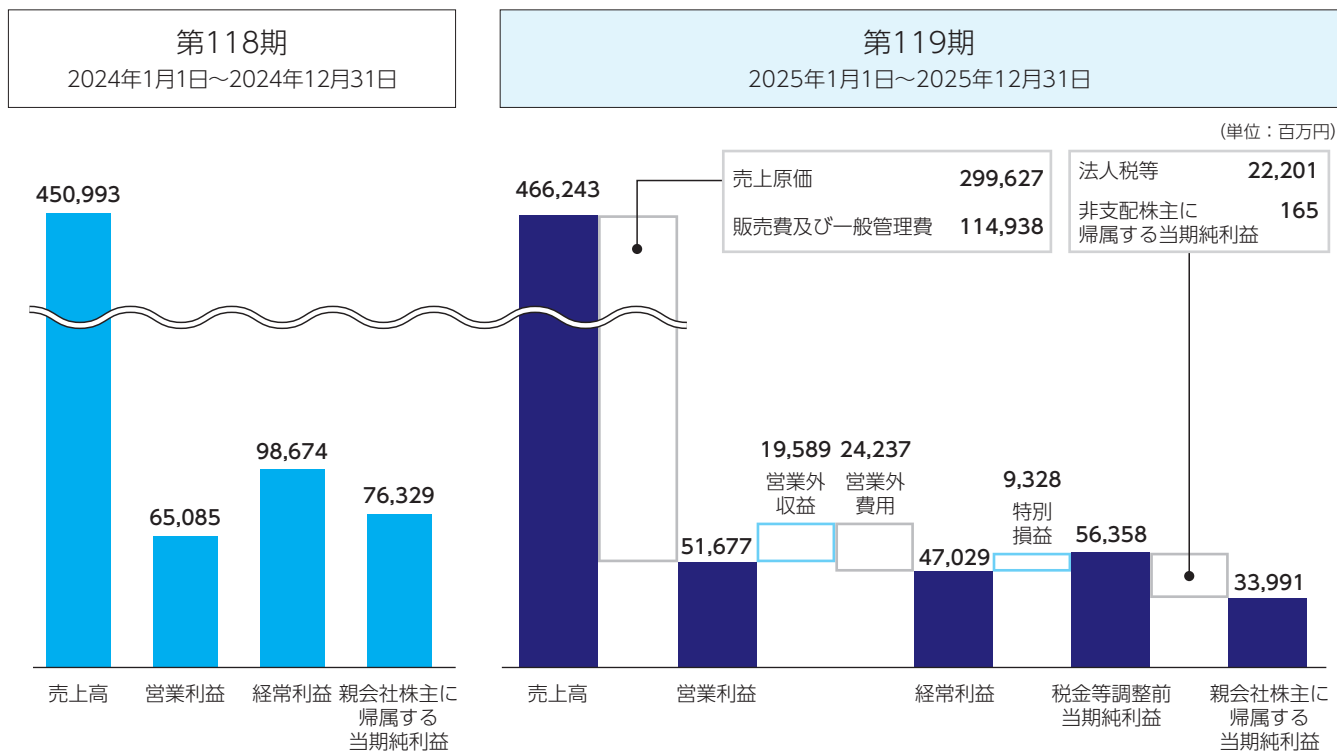


エントランスホール

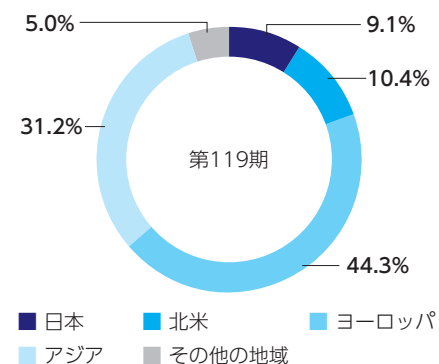


日本庭園

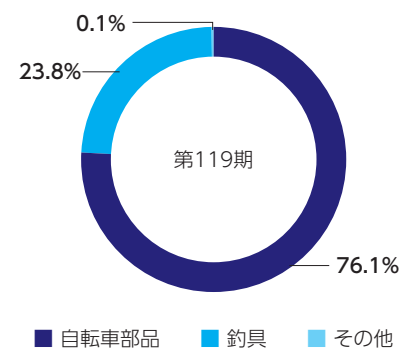
■ 連結損益計算書 (要約)



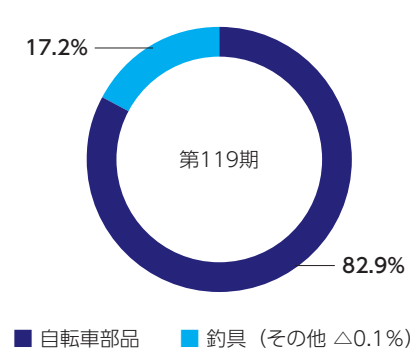
■ 地域別売上高比率



■ セグメント別売上高比率

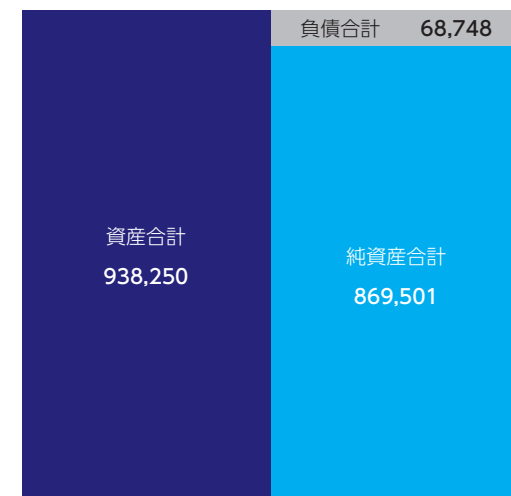


■ セグメント別営業利益比率



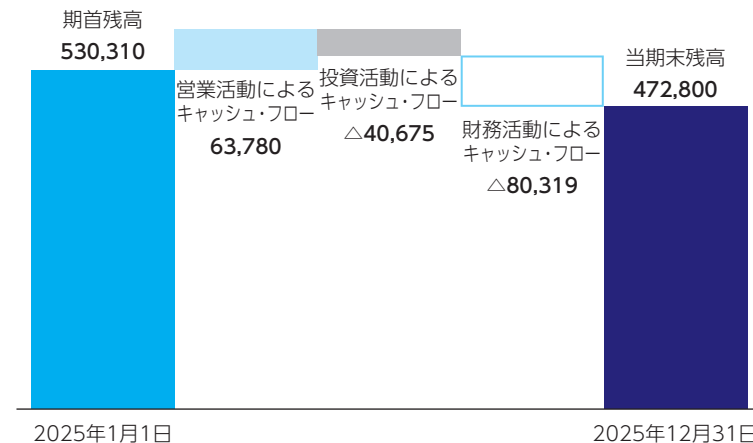
■ 連結貸借対照表 (要約)

第119期末 2025年12月31日現在
(単位：百万円)



■ 連結キャッシュ・フロー計算書 (要約)

第119期 2025年1月1日～2025年12月31日
(単位：百万円)



(注) 現金及び現金同等物に係る換算差額については記載を省略しております。
それにより生じるグラフの誤差については調整しております。

※その他の財務関連データにつきましては当社ホームページ「投資家情報：財務ハイライト」をご参照ください。
<https://www.shimano.com/jp/ir/finance-highlights.html>

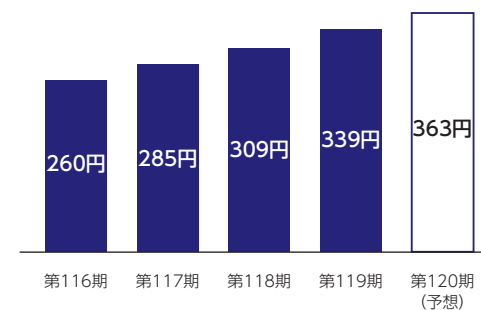


■ 年間配当金の推移

当社は、株主のみなさまに対する利益還元を経営上の重要課題と捉えており、安定的な配当の維持・継続とともに、業績の進展に応じた成果の配分を行うことを基本方針とし、引き続き配当の充実と、機動的な自社株買い継続により総還元性向50%を下限の目安とし、株主還元向上につとめます。

この基本方針に基づき、今回の期末配当金につきましては、前年同期より15円増額の1株当たり169円50銭の配当とさせていただきます。これにより当期の年間配当額は、前期から30円増額の1株当たり339円となりました。

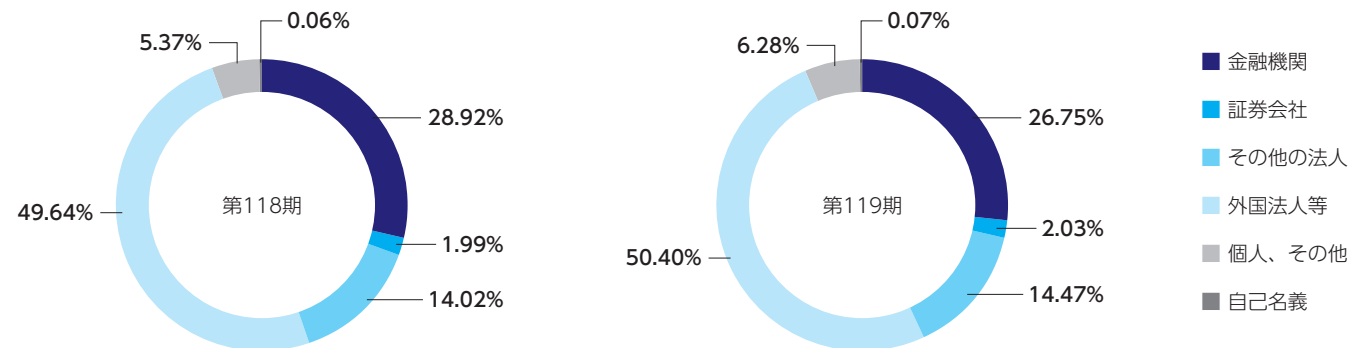
なお、次期の配当につきましては、1株当たり年間配当額363円(中間配当金181円50銭、期末配当金181円50銭)を予定しております。



■ 発行可能株式総数 262,400,000株
 ■ 発行済株式の総数 86,530,000株

■ 株主数 14,683名
 ■ 単元株式数 100株

所有比率



大株主 (上位10名)

株主名	持株数(千株)	持株比率(%)
日本マスタートラスト信託銀行株式会社 (信託口)	11,126	12.87
湊興産株式会社	7,936	9.18
JP MORGAN CHASE BANK 380055	6,425	7.43
株式会社日本カストディ銀行 (信託口)	3,145	3.64
STATE STREET BANK AND TRUST COMPANY 505001	2,609	3.02
株式会社スリーエス	2,171	2.51
STATE STREET BANK AND TRUST COMPANY 505223	1,870	2.16
日本生命保険相互会社	1,801	2.08
STICHTING PENSIOENFONDS ZORG EN WELZIJN	1,590	1.84
THE BANK OF NEW YORK MELLON 140042	1,549	1.79

(注) 持株比率は自己株式 (64,521株) を控除して計算しております。

社名 株式会社シマノ
 英文社名 SHIMANO INC.
 創業年月 1921年2月
 設立年月 1940年1月
 資本金 35,613百万円
 従業員数 1,779名
 事業内容 自転車部品、釣具、
 ロウイング関連用品等の製造販売
 本社 〒590-8577
 大阪府堺市堺区老松町3丁77番地
 U R L <https://www.shimano.com>

役員

代表取締役会長兼CEO	島野 容三	上席執行役員	金井 琢磨
代表取締役社長	島野 泰三	上席執行役員	大津 智弘
代表取締役副社長	豊嶋 敬	上席執行役員	島野 勇三
代表取締役副社長	津崎 祥博	上席執行役員	能勢 佳孝
専務取締役	チア チン セン	執行役員	大竹 正浩
社外取締役	一條 和生	執行役員	中野 敬介
社外取締役	勝丸 充啓	執行役員	島野 豪三
社外取締役	榊原 定征	執行役員	高柳優寛ファビオ
社外取締役	和田 浩美	執行役員	嶋田 力
社外取締役	江口 あつみ	執行役員	平野 秀樹
常勤監査役	樽谷 潔	執行役員	大瀬 戸葉子
常勤監査役	吉本 昌義		
社外監査役	野末 佳奈子		
社外監査役	橋本 敏彦		

株主メモ

事業年度 毎年1月1日から12月31日まで
 定時株主総会 3月
 基準日 期末配当金 毎年12月31日
 中間配当金 毎年6月30日
 単元株式数 100株

公告方法 電子公告
 当社のホームページに掲載いたします。
 (<https://www.shimano.com/jp/ir/electronic.html>) ただし、やむを得ない事由によって電子公告による
 ことができない場合は、日本経済新聞
 に掲載いたします。

株主名簿管理人および
 特別口座の口座管理機関 東京都千代田区丸の内一丁目4番1号
 三井住友信託銀行株式会社
 株主名簿管理人 大阪市中央区北浜四丁目5番33号
 事務取扱場所 三井住友信託銀行株式会社 証券代行部
 郵便物送付先 〒168-0063 東京都杉並区和泉二丁目8番4号
 三井住友信託銀行株式会社 証券代行部
 電話照会先 電話 0120-782-031 (フリーダイヤル)
 受付時間 9:00~17:00
 (土・日・祝日および12/31~1/3を除く)

ホームページURL <https://www.smtb.jp/personal/procedure/agency>
 よくあるご質問 (FAQ) https://faq-agency.smtb.jp/?site_domain=personal
 お手続き方法やよくあるご質問は、上記「よくあるご質問 (FAQ)」サイトでご確認いただけます。

証券コード 7309